

# 鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30  
例会場 鈴鹿サーキットホテル  
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992  
鈴鹿サーキットホテル  
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



Rotary 

ロータリー：  
変化をもたらす



## 第1277回 例会報告 (2017年11月3日)

### 第26回鈴鹿ベイロータリー杯少年柔道大会

奉仕部門 青少年奉仕担当

■司 会 / 担当委員長 谷田義弘 君

■国歌 / 君が代 斉唱

■会長挨拶 / 大泉博典 会長

鈴鹿ベイロータリー杯少年柔道大会を開催するにあたり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

何よりも大切なのは“基本”まずは大きな根をつくることです。スポーツに限らずいかなるものにも基本というものが存在します。柔道も同じで抑え込むときには抑え込むための基本動作、投げるときには投げるための基本動作があります。守るときは、守るための基本動作があります。その基本を構成しているのが昔からよく言われている「心技体」です。心は「辛くなってからが勝負」、技は「基本練習の徹底」、体は「日々の積み重ね」。



そして柔道を行う上で必要な「ケガをしないための身体」をつくる事です。ケガをしないように頑張ってください。選手諸君におかれましては、日頃の稽古の成果を発揮していただくとともに皆様の絆が深まることも、期待申し上げます。

本日26回目の本大会を迎えることができましたのも、鈴鹿地区柔道会のご尽力をはじめ、ご後援をいただきました鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市体育協会・中日新聞社・CNSの各位様のおかげと、心からお礼を申し上げますとともに大会の準備、運営にご尽力をいただきました皆様に感謝を申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

## ■出席報告

| 例 会 日    | 会 員 数 | 出 席 者 | 欠 席 者 | 出 席 率  |
|----------|-------|-------|-------|--------|
| 11 月 3 日 | 12 名  | 10 名  | 2 名   | 83.33% |

2週間前の補正後出席率 12名中 8 名 66.67%

## ■例会 / 第26回鈴鹿ベイロータリー杯少年柔道大会



スラムから抜け出すための柔の道。

若者たちはリオデジャネイロの貧困街で、オリンピックを夢見る。

モロダマンガイラのスラムに住むルナン・アルベスさん（19歳）は、柔道で人生が変わると信じ、現在 Rotary Club of Rio de Janeiro-Mercado São Sebastião がスポンサーとなっている児童施設で教えています。彼自身、この施設に住んでいます。

10歳で柔道に出会ったルナン・アルベスさん（現在19歳）は、はにかみながら早口で話します。「子どものころ、将来は麻薬密売人になりたいという恐ろしい考えをもっていました。でも柔道が別のドアを開いてくれたんです。柔道は、よき市民として、ブラジルのために闘う道を教えてくれました」。

リオデジャネイロのロータリークラブから支援を受けているこの柔道チームには、周囲のスラム街からやって来た若者300名が参加しています。コーチをしているジョアン・ルイス・ミランダさん（Rio de Janeiro-Rio Comprido ロータリークラブ会員）は、助手の力を借りながらチームを組織するために奮闘しています。若者たちにとって、チームでの経験は、暴力と犯罪の日々から抜け出す道を提示するものです。

ビトリア・ピニェイロさんは、2020年のオリンピックを目指して毎日練習しています。彼女にとって柔道は、負のエネルギーからポジティブな目標へと視線を変える助けになるものです。そんな彼女は、インターアクトクラブの会員でもあります。

ロータリークラブの支援によって多くの選手たちのパフォーマンスは変わりました。クラブは地元の食糧バンクと協力し、食べ物を毎月、チームメンバーとその家族に提供しました。選手たちはロータリークラブの支援に答えられるよう、これからも稽古を続けます。

